
いななき

第 15 号



1999

青山学院大学体育会馬術部・緑鞍会

目次

第一部

馬術部と共に……………緑鞍会会長 青木 昇(昭16卒)……………	1
名誉部長挨拶……………高森 寛(国際政治経済学部教授)……………	3
部長挨拶……………清水康司(国際政治経済学部助教授)……………	3
高等部部長挨拶……………宇田川雅子(高等部教諭)……………	4
緑鞍会理事長挨拶……………新城直樹(昭28卒)……………	5
監督挨拶……………大塚まりこ(昭44卒)……………	6
コーチ挨拶……………土橋寛太(平7卒)……………	6

第二部

思い出がいっぱい (OB寄稿)	
現役時代の思い出……………大島孝子(昭32卒)……………	8
「四五六会」の仲間……………遠藤恭輝(昭35卒)……………	8
現役時代の思い出……………松永恭直(昭61卒)……………	9
思い出の一頭……………松元裕子(旧姓・北井平6卒)……………	11

第二部

現役より	
主将挨拶……………	18
新主将挨拶……………	18
高等部馬術部辛将・副将挨拶……………	18・19
部員紹介……………	20
馬匹紹介……………	30
活動予定……………	37
試合結果報告……………	38
編集後記……………	42

名簿

馬術部と共に

緑鞍会会長 青木 昇

大正十二年馬術部が誕生してより七十五年、四分の三世紀の時が、歴史として過ぎ去って行きました。今老境の人も、壮年の人達も各々の青春の日々馬を通しての哀歓が数々あつたものと思われます。その馬との交わりの延長線として、緑鞍会があります。唯我々の学生時代には、残念乍ら自馬はなく、練習は乗馬クラブか、休日の士官学校でした。今日自馬（預託馬を含む）十四頭も持っていることを思うと今昔の感がします。

昭和十六年十二月戦争の為、繰り上げ卒業となり、待ち構えられていた様に軍隊に入ることとなりました。小生は体重が少なかったので、第二乙種合格と徴兵官に宣せられ、「お前は馬術をやつてたな」と云われ、騎兵かとい瞬喜んだのも束の間、輜重兵でした。世の中思う様にはゆかないものです。唯毎日馬と接するのが唯一の慰めです。馬事教練丈は同僚兵と違つて少しも困りませんでした。馬術部のお蔭です。軍隊の話になると切りがありませんので、この辺で措くことと致します。

馬術部七十五年の歴史の中で、浮き沈みは多々あつたと思われます。青木真次先輩の馬術部に残された足跡は、我々は勿論、後世迄伝えねばならないと思ひます。前号いなきにも書きましたが、新らしい人達の為に、又古い人達の記憶を呼び戻してもらふ為にも敢えて再び認めます。多くの私財を投げ出され、馬匹の向上、馬術の技術的強化に大いに貢献され、馬の故郷遠野に曲家を借り上げられ、合宿等積極的に努力されたことは、今も緑鞍会話兄弟の脳裏に、懐かしい思い出として刻み込まれているものと存じます。青木真

眞次先輩を称え、又現役に寄与する為に、青木眞次基金があります。先輩が後輩の援助をする範でもあります。どうぞ緑鞍会話兄弟のご後援を節にお願い致します。

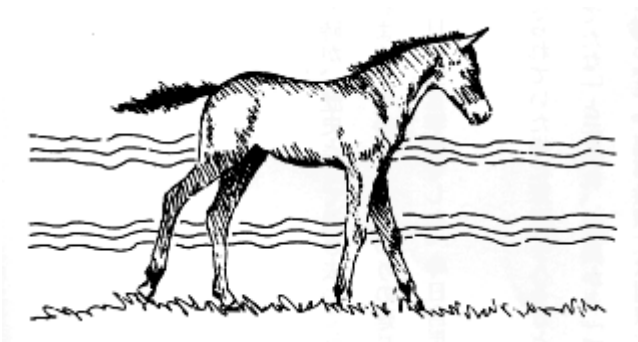
(昭16年卒)

(注) 「青木眞次基金」送金先宛名

さくら銀行銀座支店

普通預金 3710605

青山学院馬術部緑鞍会 会長 青木 昇



馬を友にするところ

名誉部長 高森 寛

いまだきの大学生の風潮として、面白おかしく気ままに、楽をして大学年間を過ごすというものが、どこにもみられません。私が部長をお引き受けして、当時の監督の張間さんに、初めてお会いしたとき、私にいわれました。「馬術部の学生は、冬などは、空には、まだ星が見える早朝に家をでて、綱島の馬場に集合して、みんな馬の世話をして、それから授業にでかけます。馬の飼料代を稼ぐために、みんなでアルバイトもしています。かれらにとって、馬術は、スポーツというよりは、修業です」と。

そのころ、部員も数人しかいなくて、馬の世話といつても、女子部員にとつては、たいへんな重労働に見えました。男子部員は、3年生では、岡村敬彦君一人で、馬場での宿泊当番も、かれがほとんど毎晩やっていたようです。彼に聞きますと、アルバイトも、部員が、毎日、交代でガソリン・スタンドで働いたりしているが、いくら稼いでも足りなくて、飼料代の借金が一年分たまっていくということでした。それで、今月払う何万円かの飼料代は、去年の分、すなわち、去年、馬が食べた代金をいま払うのだという話でした。そんな一年も滞納していいのかと聞きますと、先方は、お金の都合があったときに払えばいいといっているし、いまでも、そうやってきましたということでした。

わたしは、馬をやる人たちの世界は、ずいぶんとおおらかなんだなと

思いましたし、このとき以来、いまだきの大学生とはまるきり違う馬術部の学生たちをたいへんかわいいと思うようになりました。

馬と共に、また、仲間達とも、担いあつて生きをこを通して、ひとりひとりが、力強く、大きく成長し、また、豊かな人間性を培って、社会に巣立っていつてくれていることを感じています。青学の建学の理念に、「地の塩」となる人間を育てるとありますが、馬術部で馬を友として育つた人たちは、そのような心をもって世に出ていつてくれていると信じます。

わたしは、緑鞍会の方々との交わりを通して、このことをいつそう強く思うようになっております。

(国際政治経済学部教授)

新部長就任にさいして

馬術部部长 清水 康司

馬術部は青山学院大学体育会の中でも創部一九二三年(大正二三年)と伝統ある部であります。その伝統ある部に今春、長年にわたり御指導くださった高森教授(前部長)から部長就任についてお話を頂戴したときほ本当にビックリしました。学生時代から私の頭の中には「馬術部」＝「ブルジョワ」という印象が強く、自分に全く縁のないスポーツだと思つていたからです。子供の頃にマザー牧場で手綱を引いてもらいながら馬場をぐるぐる周した位で知識も経験も100%素人です。「この私に一体

何が出来るのだろうか」と薄い頭を更に薄くする思いの春休みでした。

就任前の3月の初乗り会では、OBの皆様と監督・コーチ・学生と一緒に楽しい一日を過ごさせて頂き「ホッ」としました。綱島グラウンドは中・高等部の学生時代から他の部活動で何度も利用したのですが、実際に馬場に入ったのも、また厩舎の中の馬連に触れたのもその時が初めてでした。これまで青山学院には3年間お世話になっていますが、「こういう世界が学院内に在ったのか」と何か今まで貴重な時間と体験の機会を逃してきたような思いがしました。

「馬術」は体育会競技の中でも特別な分野です。対象（パートナー）がモノや道具ではなく「生きている馬」ということで、学生は普段から馬と生活を共にしなければなりません。また遊興費のためにアルバイトをする学生が多いなか、馬の飼料代等のために個人の時間を費やすことは地道なライフスタイルを強いられます。しかし、相手を思いやる気持ちや学生生活においてひとつの事をやり遂げる姿勢は非常に貴重な経験であり、いつも礼儀正しく節度ある馬術部諸君の姿を見ながら、大変誇らしく思います。

平成二年度は、1年生が9人入部しました。OBの皆様には私が二人目の新人であることと、今後とも御指導御鞭撻のほど宜しくお願い申し上げまするとともに、伝統の馬術部のますますの発展を心より願っています。

(国際政治経済学部助教授)

高等部部長挨拶

高等部馬術部部长 宇田川雅子

緑鞍会の皆様、大塚監督、斉藤助監督、高柳コーチ、大学生の皆様、日頃は高校生が大変お世話になり、有難うございます。心より御礼申し上げます。

ご存知の様に青山学院高等部馬術部は、その活動の100%を青山学院大学馬術部に頼っており、技術面の指導はさる事ながら、生活面においても青山学院大学馬術部のきめ細やかな指導を受けています。大学馬術部あつての高等部馬術部に他ならず、馬に乗れない顧問としましては、その熱心なご指導にただ感謝するばかりです。

さて、一九九八年度は高等部馬術部にとって画期的な事が二つありました。

一つ目は、夏のインターハイで、なんと全国ベスト16に入った事と、二つ目は、生徒達の長年の要望が通り、高等部後援会から、高校生の馬、ペルシャンブルーを買ってもらった事です。気立ての良い芦毛の馬で、早く高校生が乗りこなせるようになれば良いな、と思っています。

私事で恐縮ですが、夏休みにモンゴルで馬に乗ってきました。モンゴル馬は130cm位のポニーの様な馬ですが、どこまでも広がる草原を走る気持ちの良さは何にも代え難いものでした。翌日の腰と脚の痛みは大変なものでしたが、とても楽しかったです。馬術部部长四年目にして、

ようやく少しだけ馬術の楽しさに触れる事ができた気がします。

どうぞこれからもよろしくお願い致します。(高等部教諭)

想いで

緑鞍会理事長 新城 直樹

昭和二十五年頃終戦の慌ただしさもさすがに落ち着き世の中も余裕が少々出てきた頃、代々木の東京乗馬倶楽部で乗馬を楽しんでいた学生の中から青山の馬術部を復活させようではないかという気運が高まり、同好の士を募っていた。

学校からはまだ部として認められていなかったが学生馬術連盟の加入の条件として自馬の所有ということがあったので、静岡県御殿場の長田氏に依頼し馬の購入を計画そして手に入れたのがかの有名な青峰号である。

他校の学生にとっては、反動が高く且つリズムが合わないと言われ拒否をする東都一の癖馬と嫌われていたが我々にとっては従順な可愛い素敵な馬であった。ただ初めて出合った人とか手入れをあまりしてあげない人とかには嘔む癖があったのには少々困った。

馬術部を結成したのはいいがなにぶん部員が僅か六、七人のため財政的にはまことに貧困で乗京乗馬倶楽部への委託料も相当な負担であったので学校へ持つていつて仕舞おうと強引に学院内に連れてきてしまった。

幸いにも当時の学院は校舎の整備等で工事用の材料がゴロゴロしていた。西門の奥の空き地にこの柱や板で馬が一頭入れる掘立小屋を作り雨

露をふせげるだけの馬小屋兼部室を建ててしまった。学校からは立ち退きを申し渡されたが行くところが無いと居座ってしまったわけである。

練習にはグラウンドを勝手に使用し、当時はこのグラウンドを野球部、ラクビー部、サッカー部と一緒に使用していた。そこに馬糞を撒き散らしてしまつたのでラクビー部の顧問の先生からニラまれ、馬術部員というだけで科目の単位を貰うことが出来なかつたということもあつた。

馬術部として活躍してくるとやはり伝統が欲しくなり先輩方と交流を持ちたいとの気持ちから戦前の資料等を集め、現在の住所やら勤務先等を探しだし昭和二十六年に第一回の会合を京橋の明治製菓会議室にて行なつた。いまは亡き諸先輩が多数お集まり下さり本当に華やかな会合であつた。そしてこれを契機として部室にも顔を出して下さる様になり練習もみてくださる様になつたのである。

昭和二十七年になり馬術部に女子部員を募集しようとはばかり入学式を目当てに宣伝して十数名の獲得に成功したが掘立小屋の部室まできてその汚さに入部せず立ち去つてしまつた者もいたが無理もないことと思ふ。

古い汚らしい小屋ではあまりにも可哀相と思われたのか学院内に住まわれていらした亀徳先生のご尽力もあり木造ではあるが馬が五頭収容できる厩舎が学校の力で建てられ晴れて馬術部として大きな顔ができる様になつた。

そして入部した女子部員にも男子部員と同じく馬の手入れや掃除まで当番制にして馬に慣れさせたのが良かったのか女子競技会では抜群の成績を治め暫らくの間は競技会に君臨し覇権は常に青山学院の上に輝いていた。

(昭28年卒)

監督挨拶

馬術部監督 大塚まりこ

緑鞍会会員の皆様におかれましては、益々ご清祥にお過しのことと
慶び申し上げます。

日頃は、現役に対しまして多大なご援助を賜りまして誠に有り難うご
ざいます。心より御礼を申し上げます。

我が馬術部も平成十年で創部七十五周年を迎えました。誠に喜ばしい
かぎりです。青山学院大学体育会馬術部の伝統を誇りに感じ、その脈々
と受け継がれた伝統を次世代に受け継ぐ責任を大いに感じる次第であり
ます。

私は、未熟ながらも今年で監督就任五年目となり、月日の過ぎる早さ
に驚いております。一年生だった現役が四年間を全うし卒部するという
ことは、感無量であり、自分自身が大学生だった頃と今が重なり嬉しい
ような、悲しいような不思議な思いが致します。

平成九年十二月の全日本学生馬術大会を最後に、長い間お世話になり
ました田中一弘コーチがお引きになり、今年度は一から出直しの年であ
りました。しかしながら齊藤比佐郎副監督を迎え、高柳コーチ、北井コ
ーチ、土橋コーチ、現役の努力の甲斐あつて、馬匹の故障、試合馬の引
退等多くの困難がありました。お陰様で試合も良い結果を得る事が出
来ました。これも一重に、諸先輩の皆様のご指導、ご支援の賜物でござ
います。

馬術部の経済状況の苦しさは、相変わらずではありますが、緑鞍会、
維持会、青木真次基金からの資金的援助のお陰で、中古車ではありません
が馬連車も新たに購入できました。又、馬術部奨学金も活用させて頂き、
誠に有難いことと感謝しております。緑鞍会会員お一人一人の会費が、
現役達の活動の基礎となり大きな支えとなっております。

近年、大学運動部の存続が危ぶまれておりますが、お陰様で我が部は
部員数も徐々に増え、馬匹も十四頭となりました。その中の一頭は、高
等部の後援会より購入して頂くことが出来ました。試合に参加し勝つ事
は最大の目的であります。その事のみを目的とするのではなく、学校
の課外活動として馬術部ならではの活動のあり方も考え実行しておりま
すので、今後ともさらなるご指導、ご支援を宜しくお願い申し上げます。
(昭三卒)

コーチ挨拶

土橋 寛太

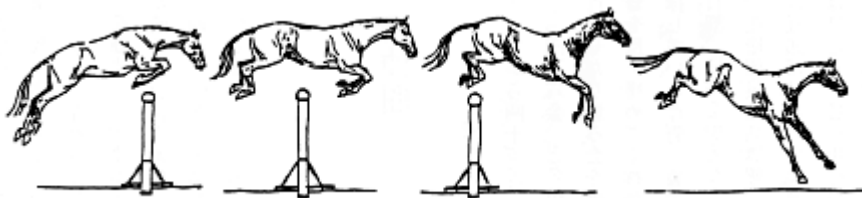
高校で、おちこぼれだった私は、エスカレーター式の大学へ入学する
事ができず、インターハイ、国体に出場していた為、駄目もとで馬術で
大学に入学できた。と、図々しくも考え、この青山学院大学に入学させ
ていただいたのです。大学での馬術は、それまで私が教わった馬術を
根底からくつがえす様なヨーロッパスタイルの本物で、基本から徹底的

に、当時コーチの田中さんにたたき込まれました。おかげで3年生の時には名馬プチブル一号に入厩時から騎乗させていただき調教や調整について勉強する事が出来、海外遠征にも行かせていただきました。又私が4年生になる時にどうしても学生時代にやりたかった事が、総合馬術団体出場でした。その夢も大塚監督、田中コーチのおかげで、達成する事が出来、絶好調だった私でしたが、4年生最後の大会、全日本学生の最終競技の総合馬術の野外騎乗で最終障害から一つ前の障害で人馬転し、さ骨を骨折し救急車に乗るはめになり、私の現役生活は幕を閉じたものでした。統括して、私の現役時代はかがやかしい成績はなかったものの、関東学生の2週間前に酔って、ろつ骨を折るなどやんちゃで監督・コーチからは記憶に残る学生だったのではないのでしょうか。

私はこれまで、就職までも馬術関係者との出逢いで決まったりと馬を通して多くの良き出逢いにめぐりあっています。そして馬術部にいた4年間の挫折や自信・経験が今の自分をささえています。今コーチをさせていただき、現役の学生の皆が卒業後、同じ様に馬術部の4年間が生涯のバックボーンになる様、大塚監督・高柳ヘッドコーチのもと、指導していく事が出来たらと考えています。

OBの皆様には金銭面を含め多々お願い、ご迷惑をおかけする事もあると思いますが、これからも、御指導、御支援の程よろしくお願いいたします。

(平成7年卒)



思い出がいつばい

現役時代の思い出

大島 孝子

昭和二十八年四月大きな声で入学式当日入部の勧誘を耳で聞きながら入学式を終えて馬術部の馬房らしきものがあり人が一人乗っておられました。その人は宮坂さんでした。大柄の人で口の大きさと声の大きさにあい大変驚きました。翌日馬房に行きましたら四角顔の将棋の飛車のような人が来部してきて「よく入部してくれました」と云われて始めて入部の勧誘をしていた御人と解りました。その人こそ東雄三郎先輩でした。又すぐ馬房に来られ、その後私が試合にデビューして落馬した時鞭をとりに走ったら「鞭ではない、馬だ」と怒鳴って頂いた藤根先輩にも会いました。入部した時馬は三頭おりましたが三日後に馬房に行きますと二頭になっておりました。馬房は校内の今のテニスコートのあつた処で行なっておりました。金のない後輩を面白がつてスピードという居酒屋へ同行させて頂いた巻島先輩、又よく小遣いを馬の餌代として頂いた羽坂先輩、牧師のくせにタバコの煙をふかしていた植松先輩、面倒をよくみて頂いた新庄先輩、又馬の調教の際熱心に引き馬をして良馬にしてくださった堀内先輩、落馬の回数では我々同年の中では一番多かった、故市原昭十郎君、一度は障害もとべなくなった青波をパレスの大会で入賞さ

せる程に調教をして頂いた阿部先生その阿部先生を井上乘馬からスカウトされた福原、梅元両女子先輩、我々学生をオシヤレさせようと戦前の馬術部の学生の服装の事をお話し頂いた青木OB会長、又我々学生を社会の規律の中でいかに「スジ」を通すのが大事かということをも日本石油の事務所ですべて下さいました前OB会長青木真次先輩、私ども四十余年前我が青山学院大学馬術部の創世の時期に苦楽を共にした先輩、同輩の諸氏。限られた紙面では書きつくせない思い出であります。

(昭32年卒)

「四五六会」の仲間

遠藤 恭輝

昭和三十五年馬術部を巣立つてから四十年近くの歳月が流れている。仲間はみな還暦を過ぎたが今も「四五六会」と名付けて親密な交流を続けている。箱根や日光に小旅行をしたり飲み会を催したりしている。

昭和三十五年組は、後に監督を長年務めてくれた実力派の張間、部活動のマナージメメントに能力を發揮していた芹野、資金繰りにいつも苦労していた白崎、女性軍の高橋、石割、日高を加えた五人だった。当時、厩舎は青山のキャンパスにあり、在籍部員は高等部、短大を合わせて60人を超えたことがあった。馬匹は五頭だけなので練習には苦労した。現在と違い、学生馬術競技はほとんど貸与馬競技だった。他の大学の自馬に相手大学の選手と前段後段に分かれて乗り失点差を競うわけだけ

ら、誰がどの馬に乗るかの作戦が勝敗を左右した。白崎はいつも中央大の名馬「白秋」に乗り満点で帰り、張間は日大の難馬「桜月」に乗り、拒否失権を繰り返し稀に障害を一つ飛んで拍手を受けていた。私はよく成城大「城雪」に当たったが満足にゴールした記憶がない。しかし選手層は厚かった。高等部からのベテラン、三十六年の岩崎、三十七年の堤両主将が控えていたので心強かった。

遠征試合もよくやった。名古屋で市立大学、京都で同志社大、大阪で関大、神戸で甲南大等である。関西の大学のレベルの高さに驚き刺激を受けた。

合宿にも数々のエピソードがあるが、忘れられないのは北海道でのことである。「四五六会」のリーダーは三十四年の堅村主将夫妻なのだが、我々はこの先輩に今も頭が上がらない。北海道合宿の際のことであるが、堅村先輩は都合で遅れて参加することになり、我々は札幌で北大と、帯広で帯広畜産大と親善試合をすませ、釧路の近くにある種畜牧場でアルバイトをしながら合宿をすることになっていた。ところがこの計画が突感駄目となり、やむなく、北見郊外の競馬場跡で近隣の農家の馬を借りてやることになったのだが、どういう手違いか堅村主将に行先変更が伝わらず、主将を広い北海道で迷子にさせてしまったのである。「四五六会」の会合の度に言われ続け、なかなか時効にしてくれない。

いつの時代でも馬術部の財政は破産寸前である。しかし、アルバイトの記憶はない。部費は600円だった。親に頼ることもなかった。その代わりマネジャーの芹野の陣頭指揮のもと緑鞍会費の集金に先輩を訪ね歩いた。酒好きの先輩が多く、恋文横町やどぶ坂横町で安酒を浴びるほ

ど飲まされ寝藁にもぐつて寝たこともあった。こんなことがOBとの料となったのかもしれない。

さて、悔やまれてならないのは40代の若さで逝ってしまった白崎のこと。榊レナウンに就職し、幹部として将来を嘱望されていた。寡黙だが優しい男だった。私が大阪に転勤しているとき、出張の度に立ち寄り「これ見本だ」と言つて、肌着や靴下を土産にくれた。赤提灯で酒を酌み交わしたが彼はいつも無口だった。彼の病状が悪化したときは張間と芹野と病院に泊まり込んだ。彼の意識が朦朧としてゆくのを見て私が「白崎、しつかりしろ」と何回も大声で呼びかけたところ、彼はうつつらと目を開けて「遠藤、うるさいよ」と呟いた。これが私への最後の言葉だった。奥様、お子様、親友に見守られ静かに臨終を迎えた彼の顔は穏やかだったが、私は呆然としていた。

これからも仲間との間を大切にしたい。

(昭35年率)

現役時代の思い出

松永 恭直

伝統ある青山学院大学馬術部の数々の大先輩方々また優秀な後輩達を思いますと、私などが、「いななき」への寄稿など滅相もないとお断りを考えましたが、ご要望と受け止めこの機会にお伝えしたいこともありお引き受け致しました。



申し遅れましたが、私は昭和六十一年卒業の松永恭直と申します。

早速ですが、現役当時のお話に移ります。私の一年次上は全日本学生馬術競技大会で団体総合三位になられ、女子自馬では何と全員が満点走行をされる等輝かしい成績を残されました。その名の先輩方は、良い馬術を志すんだという方向でまとまった素晴らしい学年でした。そうした中で、私が出来る役目としては使役隊長として誰よりも行動し得るだけ馬に乗ること以外の先輩方の負担を自分で進んで代わりに行ない、それを来るべき名の卒業時には残る者としてその後には伝えたいと考えていました。

幾つかのエピソードをお伝え致します。馬事公苑での試合を終え最後の荷物を軽トラツクに積み込み馬場に戻る途中、右折車に右後部に接触

され、環八で横転。顔を二針縫う代わりに、新車の軽トラを獲得。体を張った貢献と称られる。また、良いアルバイトがあるとアバロンから大阪まで馬輸送。最高時速100キロが精一杯の馬連車で片道8時間のとんぼ返りを単独で行ない交通費等差し引いての部への利益は微々たるものこれも、日頃の恩返しと解釈。

しかし、本当の忙しさとか責任感とは、肉体労働が大事だった時でなく、最上級生になった時に初めて味わいました。特徴的な出来事を2つご紹介致します。私以下現役が9名で、試合には10頭の馬を輸送致します、当時は2頭積み馬連車でしたので、綱島と馬事公苑を往復というのが、当り前でした。行きは金曜日を使えば良いのですが、帰りが大変です。

メイン競技に出して頂いていた都合上、帰りの輸送は日曜の午後3時以降からとなります。どんなに早くても5往復しますと、6〜7時間以上掛かりますので、日曜日いっぱいということも多々ありました。何分運転するのが一人でしたので、どうしようもない時は、他大学の頭積み借りたりしました。こんな苦境を共に部員として頑張った当時の現役後輩達には、頭が下がる思いです。

そんなことより私がこの場をお借りして皆様にお詫びも含め、最もお伝えしたいことが、次に述べる出来事です。私が、最上級生となり最愛の馬として当初は乗り切れないままでしたが、何とか折り合いも付き大きな試合にも騎乗させて頂き、当部の看板馬で有りました、「青雄号

(別名 シンキスパー)の死についてです。あれは、忘れもしない真夏の8月高校生練習に使っていたシンが倒れたとの情報を美浦のトレセンで聞きました。その20分後、そのシンが亡くなったとの知らせ。信じが

たいという思いと、自分が最も大事にして来たと思っていた「人」に
関ることと等しいあるいはそれ以上に大切なことが「馬」への細心の注
意であるということを感じました。私が多忙にかまけて気付いてあげら
れなれた馬のメッセージ。それは、あまりにも大きな代償という形で、
シンが教えてくれたのだと確信致しました。最も悲しい悔やんでも悔や
み切れない悪夢でした。

結びとして、これまでに馬術部のために尽くし死んでいった全ての馬
達の冥福をお祈りすると同時に恥ずべき私の愚行が、これから先現役の
諸君には起きませんことを切に希望します。青春という多感な時期を綱
島の馬場で過ごした経験はこれからの人生にも必ずやプラスになると考
えられます。皆様の活躍を期待しています。

最後になりますが、良き馬術をご指導頂きました松本先生、田中コー
チには本当に感謝の気持ちでいっぱいです。この場をお借りしまして、
お礼申し上げます。本当にありがとうございます。

(昭61年卒)

思い出の一頭

松元 裕子(旧姓・北井)

私が大学3年の時に馬術部に自馬を持ち込んだのが「ブルーファルタ
ー号」でした。

当時、六平監督と田中コーチに許しを得て、青山学院大学馬術部に責

献できるようにと入れさせて頂きました。

ブルーファルター号はとても温和で、下級生を乗せても練習馬としての役を
果たし、競技会では堂々とした演技で乗り手を助けてくれました。

馬術部の馬として入ってきたので、誰がこの馬に乗るかばかりませ
んでしたが、幸運にも私はこの馬に乗ることができ、全日本でも個人、
団体で3位に入賞することができました。また、女子自馬大会では、下
級生を乗せと優勝したりと良い成績を残すことができ、本当にブルー
ー号には感謝しています。

現在では、乗馬クラブで、練習馬としてのんびりと余生を送っていま
す。

(平成6年卒)

各種ネームプレート・各種看板類
JR工事諸標類・機械彫刻
ブロンズ製橋銘板、歴板・機械加工

 **ミカド金属株式会社**

〒210 川崎市川崎区江川1丁目8番5号
TEL 044(277)4334(代)
FAX 044(277)3241

祝

「いななき」第15号発刊

佐藤 健 (昭和39年卒)

木製建具工事、アルミサッシ工事
襖・内装工事、家具工事

株式会社 サトナカ建装

代表取締役 里中郁男(昭和45年卒)

〒170 東京都豊島区駒込 6-34-2

TEL 03-3918-0336

FAX 03-3918-0037

祝

「いななき」第15号発刊

芦川城次(昭和45年卒)

祝

「いななき」
第15号発刊

緑鞍会会長
青木 昇
(昭和16年卒)

祝

「いななき」
第15号発刊

緑鞍会理事
馬場 隆 男
(昭和17年卒)

祝

「いななき」
第15号発刊

緑鞍会理事
相馬 潔
(昭和33年卒)

祝

「いななき」
第15号発刊

山田 芳 通
(昭和38年卒)

祝

「いななき」
第15号発刊

花村紀彦
(昭和38年卒)

祝

「いななき」
第15号発刊

間明田勝彦
(昭和42年卒)

祝

「いななき」
第15号発刊

田坂泉信
(昭和44年卒)

祝

「いななき」
第15号発刊

三谷禮稔
(昭和44年卒)

祝

「いななき」
第15号発刊

安田義生
(昭和45年卒)

祝

「いななき」
第15号発刊

川嶋透
(昭和45年卒)

祝

「いななき」
第15号発刊

飯野和男
(昭和46年卒)

祝

「いななき」
第15号発刊

今泉博
(昭和46年卒)

祝

「いななき」
第15号発刊

小林正樹
(昭和48年卒)

祝

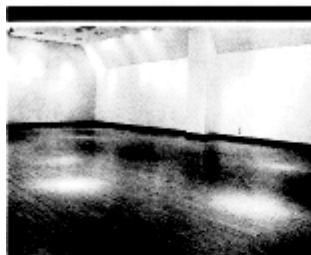
「いななき」
第15号発刊

太田恵美子
(昭和53年卒)

自由ヶ丘であなたの展覧会を
もみの木画廊

〒158-0083 東京都世田谷区奥沢6-33-14 もみの木ビル2F
TEL03-3705-6511 FAX03-3705-2515

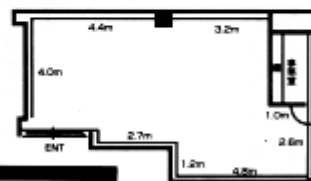
代表：大塚まりこ 受付：石黒隆子、所由香



白い壁とベージュのフローリングの
明るいスペースが平面、立体を問わず
好評。駅から徒歩4分の好立地にある
洗練されたショッピングビルの中にあ
る落ち着いた雰囲気のある。若手から
ベテランまで作品ジャンルを問わず、
貸・企画画廊として使用されている。
盆、正月以外は年中無休、祝祭日も利
用できる。

画廊詳細データ

- 壁面長—27.1m
- 天井高—2.55m
- 床面積—55.38㎡
- 期 間—応相談
- 時 間—AM11:00～PM7:00
- 料 金—1日 25,000円(税別)



ロケーション

東急東横線 自由が丘駅より徒歩4分

目黒通りより環状八号線に抜けるバス通りに面し、近くには陶芸のギャラリー、画廊、古美術商、家具ショップ等が点在する。



現役より

主将挨拶

初山 晶

今年一年主将を務めてきました初山晶です。大塚監督、斎藤助監督、高柳コーチ、土橋コーチ、北井コーチ、OB・OGの方々には、大変お世話になりました。この場を借りて、お礼を申し上げます。

昨年主将を務めていた川俣亮介先輩の後任をまかされた私ですが、いざなってみて始めて「主将」の二文字の重みと、その大変さを痛いほど知ることになりました。特に今年は変化に富んだ一年で、総合馬術競技への参加を復活させたり、監督・コーチからは部活の決定権を大幅に四年生に預けて頂いたりしました。そのため、スタート時には様々な問題が次から次へと発生しましたが、周囲の協力のおかげで程なく順調に事が回るようになりました。

至らぬことの多かった一年でしたが、私達四年生で成し遂げられなかつ

たことを、新主将の石黒率いる後輩達が必ずや達成するものと期待しております。今後も引き続き、現役への応援及びご支援をお願いいたします。

新主将挨拶

石黒健一郎

今年度、主将を任される事になりました石黒健一郎です。

監督から「主将、石黒」との発表があつた時は、「主将」という大役を自分が果たせるのだろうかという不安と共に、今までとは一味違った馬術部を作り上げてみたいという気持ちで一杯になりました。

馬術部においての馬は、競技を行うための道具ではなく、チームメイトです。ですから、私たちの目標は、自分ができる精一杯の馬のケアとパートナーシップ、そして部員同士が協力し合い、お互いをフォローし合えるような部を築くことです。

目標達成に向け、私は精一杯のことをするつもりでおりますので、監督、コーチ、諸先輩方にはご指導、ご鞭撻のほどをよろしくお願いいたします。

高等部主将挨拶

上原 達朗

今年度主将をやらせて頂きました上原達朗です。僕が始めて馬術というものを知ったのは、小学校五、六年の頃に読んだ漫画でした。その漫画は、オリンピック選手である主人公と愛馬（名前は忘れましたが、

オリンピックに挑戦し競技を行うという内容でした。その中で僕が特によく覚えていることは、主人公が夜中馬房にやってきて軽いけがをしてしまった愛馬を、語り掛ける様にしてけがをいたわっていた、という場面です。その時僕は、馬が人に甘えるように描かれているのを見て、「馬ってかわいいな」と思っていたことを覚えています。しかしまだその頃は、将来馬術をやることになるとは思ってもいませんでした。僕が馬術部で得たものは多く、それらは僕にとってとても大きなものでした。まだ馬と心を通わせ合えるとはいえませんが、馬と出会えたことを僕は誇りに思っています。

大学へ進学しても馬術は続けるつもりですので、引き続きご指導よろしくお願いいたします。

高等部副将挨拶

笠松 美幸

私が小学校二年生の時、父の仕事の関係で南米のアルゼンチンに六年間転勤することになりました。私はその時、「向こうでは沢山馬に乗れるよ」と聞いて、とてもアルゼンチンに行くのを楽しみにしていた記憶があります。馬に乗るといっても、野原で牛を追ったり、妹と競争したり、山に上ったりしていたので、基本的な姿勢や馬体の名称などの知識は高等部の馬術部に始めて知ったも同然でした。

私は高等部に入る前から馬術部に入ることを決めていましたが、私と

同時に馬術部に入ったほかの人たちはもちろんほとんどが初心者でした。

最終的に今は五人のメンバーと部活を引っ張っています。

今年はインターハイにも出場が決定しました。一年生の時は辛い時も多く、私も一度は部活を辞めることを決意したこともありましたが、今では一回でも「辞めよう」と思った自分が恥ずかしく、そしてその時「考え直せ」と止めてくださった先輩の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

夏休みは、毎日六時三十分馬場に行くことも苦ではなくなりました。よきメンバーと大学生に恵まれ、この三年間私は馬のことはじめ、人間としてたくさんのことを学びました。本当に素晴らしい体験をさせてもらったと思っています。

☆年生

部員紹介

4年



岡本 初山
土橋コーチ 松岡 石井 大塚監督 伊藤 川崎 山梨
金丸 沢岡

赤塚 隆平

「オレ、アクロバティックなこと大好きだから。」そうやって、既舎の上から飛び降りている男がいます。彼の名前は赤塚隆平。「オレが一番かつこいい」と常日頃から豪語し、突飛な行動で皆を圧倒している、鹿児島島のサッカー少年です。

彼は、人間の持つあらゆる可能性を私たちに示してくれます。

金欠で極限状態に置かれても、馬場の横を流れる、あの美しい早淵川の鯉で飢えをしのげるということを教えてくれました。

馬場で一番酒が強いといわれる九州男児も、飲み過ぎれば、救急車のお世話になる、ということも体現してくれました。

楽観主義者で、かなりアバウトながら、変なところで▷型気質を發揮する、こだわりの男、赤塚隆平。この熱い男が、無事に卒業まで生き延びてくれることを、部員一同願ってやみません。
(伊藤寛子記)

石井 香子

お調子者なところもあるけれど正義感が強いそんなところが部員に人気のある、教育学部4年の香ちゃんこと石井杏子です。

食べる事が好きというか、おいしいものが大好きで最近ちよつと太っちゃったけど甘パンはやめられないわ。でも少しダイエット始めなきゃ。

そんな私は7年間青学馬術部で一生懸命頑張ってきて、3年間全日本学生の幹事の仕事をこなしてきたけれど何かとわだいを提供してきたるかも。学習院戦打ち上げ飲み会が渋谷であった時、酔っ払った私は母親が日吉駅まで迎えにきてくれるまでの間トイレで寝ちゃって大事件になってたし(アッキー、あやちゃんごめんささい)、キュロット姿に青学ジャンパーで川崎の実家まで電車で帰っちゃうし。数々の石井にまつわる話はたくさんあるけど、楽しかった学生生活もあと半年で終わっちゃうから悔いが残らないようにしつかり遊んで、しつかり部活頑張らなきゃ。半年後、ミズタン、部員のみんなと別れるのは寂しいけど、海にいく時はEJ下さい。サザンをかけて行きましよう。
(金丸修子記)

伊藤 寛子

僕の名前は伊藤寛子です。なんだか知らないけど僕は自分のことを僕って呼んじゃうの。毎朝、鶴見の自宅から愛するスクーター、ニコラに乗ってさつそうと登場。仏文科だけに愛馬オーシャンブルーへの挨拶はボンジュール。みんな変わっているって言われるけど、僕は変ではありません。だって僕は主務の仕事バリバリこなして、学校の成績だって優秀なんです。その上、顔は皇太子妃殿下雅子様にとっくりな私が変わっているだなんて、みんな失礼しちゃうなあ。

そうそう、馬場馬として現在も活躍中のアサことブルージーンズのじんましんだって、僕が毎朝持ってきて地道に与えつづけたお茶がらのおかげで、今はすっかり良くなりました。アサ君、僕の恩を忘れちゃだめぞ。

残り少ない馬術部生活ですが、精一杯頑張りますので皆さん宜しくお願いします。おっといけない、また学生部から呼び出されてるんだ。主務はつらいなあ。

(山梨拓磨記)

岡本敬太郎

オレは岡本敬太郎。またの名をサンバイザー岡本。真面目で秀才だけどちよつとラッパーなんだよね。チキチキチキ：そしてなっしーと共に部から雨休馬をなくそうとする熱い男さ。そして毒舌…。こんなCOOL & dandyなおレにもニガテなものが一つある。それは天敵使役トラックだ。あれは忘れもしない一年の使役の時、晶運転する使役トラックの後ろに「まってくれえー」と追いつき、とびのつた瞬間、後ろのアオリと共にカツコヨク地面にとびおりてしまった(あおむけに…)。マジムカついたオレは後日そのトラックに、仕返しをしようとしたわけではなかったが、思いつきりバツクしてトラの後ろを馬事公苑の門と激突させてやった。しかし、トラは無事で門は大破し、オレの計算は狂った。そしてオレは始末書を沢山かけた。こんなにお茶目だったオレも今では愛馬サクゾーのよきパパとして、頼りがいのある馬術部のプレインとして、唯一はむかってくる石井のけんか相手として日々頑張っています。

(石井杏子記)

金丸 修子

私は金丸修子。修子って呼んでも結構ヨ。「酒豪」はつけなくてイイワ。ちなみに私、自分でも修子って呼ぶの。えっ？子供みたい？オダマリっ。

私は高等部の頼から馬術部員。そう、香子とは長いつき合いなの。部活では私、とつても働きた者って評判で、馬を思う気持ちは誰にも負けないワ。うん、私風に言うとな「熱いやつ」って云うのかしらん。そんな私は難関国家試験をパスしたんだけど、そのために一度は退部したの。そして、そう、あれは忘れもしないオリンピック記念の観戦に行った時、みんなが戻ってこいよって言うてくれたの。あん時や私、鼻水ちびらして泣いたネ。おっと失礼。

私が復帰してから部の雰囲気明るくなったって言われるの。私の存在って大きいみたい。みんなからも、笑顔と白い肌がステキってよく言われるし。さあ、今日も帰ってワインガブ飲みしよつと。

(赤塚隆平記)

川崎 彰子

あやさんは川崎彰子っていつて、どうやら関東学生でその名を知らぬ人はいない、ちよつとした有名ならしいんだ。それは自分の家の電話の音が聞こえないほどの大音響で音楽をガンガンかけ（しかも小室系）、防音が売りのドミール綱島の住人長田（下）と、元住人安田（左隣）の部屋へも毎朝5時にしつかり音を運んでいた強者だからではなく、また楓爽とシルバーのデカイBMWを乗り回しているくせに車の中が超キタなくて、乗車定員2名だったりするからでもない。あやさんは青学のマドンナ、ドレッサー

ジユ川崎なのである。馬事公苑で試合がある時なんかは顔が馬場にいる時と違いすぎて、間違えてバクつとやっつてしまい、シバかれる事もあるけど、いつもはジョイやラグ共々よく可愛がってくれるんだ。もちろん僕が一番だけだね。僕は気が弱く、大切な試合前によくジンマシンが出たり、フレグモーネになったりするんだけどあやさんはその度にすごい介抱してくれる。そして一日何回も桑田獣医に電話して毎回けんかするから、多分桑田先生はあやさんを恐れているだろう。そんなわけでやっぱり関東前にプレ

グモーネになつてしまった僕だけど、チームドレッサージユの頑として頑張るあやさんに全日では得意の伸張速歩をプレゼントするぞ。

（アサ談／松岡智子記）

沢岡 理恵

私、沢岡理恵は誰よりも信頼され、しつかり者の性格のため会計係に任命され馬術部の厳しい財政を支えてまいりました。また、美化係にも所属し部活内での過ごしやすい環境づくりを目指してきました。

これまでかわいがってきた馬の中で一番の思い出はブルーチェリーです。彼女は私がいつもお菓子や砂糖をたくさんやっていたのでまんまるに太っていたことが印象的で今でも思い出するたびにブルーチェリーIIブタという感じで笑ってしまいます。

また、私のスタイルのすばらしさは言うまでもありませんが女子部員の鎖のような存在なのです。というのも決してダイエットをしているわけではなく私の馬術部生活の一日はみんなよりも少し早くきて、正座でたっぷり朝食を食べパワーをたくわえることから始まるのです。

このような馬術部生活もあと少しで終わってしまうと淋しいのですが部員のみんなの胸の中にはいつまでも私の太陽のような笑顔が輝きつづけることと思います。

（初山 晶記）

松岡 智子

私は経営学部の松岡智子。馬術部は4年生になつてちよつと楽になつたけど、いまだに朝は大変。

6：30集合で1時間前は晶と川崎で電話をかけあつてお互いを起こしあうつて約束なのに、いつも電話をしているのはわ・た・し。2ヶ月に二回くらい彼らから電話を受けることもあるけれど、彼らが遅刻しないでいられるのは私のおかげかしら。最近、川崎なんて二度寝するから5：30と6：00、2回電話をしないと起きないし、晶も、電話を鳴らし続けても一つと起きない、朝は自分の身じたくより、2人を起こす方が大変だわ！

そんなわけで、いつも私は毎日、朝から忙しい。今日も、フィアッセに乗ってがんばろうつと。

（川崎彰子記）

初山 晶

いつもご指名ありがとうございます。ございマッス。ん、晶デスっ！オレは卒業したら芸能人になるぜ。でもみんなが「ウド、ウド」って言うから、ウドカットはやめて丸坊主にしてみたっす。次はロン毛にしてみよ一っつ。うあー、ダイカプリオよりカツコよくなっちゃって女の子にモテモテになっちゃうよ、どうしよう。アキラ、かつこいいぞっ！オレの庭の原宿でスカウトされて、月とドラマの主役に抜擢されちゃって、奈美恵とラブシーンしちゃうぜ。あ、そうそう、オレの元カの奈美恵よ、結婚おめでとう。SAMよ、オレの奈美恵をヨロシク。

ところで、オレは馬術部で主将を務めている。愛馬はハーモニーとシロとミズーリだ。また、オレはミカモフアミリーの一員で、川俣家とは一生おつき合ひしていくつもりです。

たま〜に、おっぱいさわったり腰くっつけたりするけど、それはオレなりのスキンシップだから、さわらせる！じゃなかった、大目に見てね。よろしくおねがいします。

(岡本敬太郎記)

山梨 拓磨

まがった事はキライだ。うだうだしてるヤツも許せん。そしてオレは熱く生きてる。それってオレにとつてこの上なくカッコイイ事なんだよな。こんなにカッコ良くオレは生きようとしてるのに、どうもそれを邪魔する奴がいるんだよ。でもそんな奴オレの情熱で溶かしてやる。

で、最近オレが溶かしてやったのは、雨で休馬なんて甘っちょろい事言ってる部員達だ。この時はさすがに相手の数が多くて、同じく熱い男敬太郎とともに部員をメロメロにしてやった。

オレは愛馬オーシャンブルーとペルシヤンブルーにもオレの情熱を注いでるんだ。さすがオレの愛馬たち。2頭とも馬場で1・2位を争う熱い馬たちだ。オレに似て誰に何と言われようとも趣味のネールアート(オーシャンブルー紹介文参照)だけはやめないし、ペルシヤンはオレが歌を歌えば口バクをする程の賢さだ。

最後に一言言っておきたい事がある。こんなにカッコ良く生きてるオレは見た目もジョン・ローン似(？。風見しんご…河童…)でカ

ッコイイんだ。オレはウソはつかない。その女の子たち、このオレ、ヤマタクを見にきて失神するなよ。じゃあな。

(沢岡理恵記)

3年生



広畑 仲内 長田 桃野 石黒 大矢

石黒健一郎

皆さん今日は。僕は馬術部きつてのジェントルマンと名高い、ブルー・ベルベットことチャンチャンです。今日は、僕の担当の石黒健一郎さんについて書こうと思います。

石黒さんは、僕のほかにブルー・キャンター君のことも担当しています。いつもヘラヘラ：いえ、ニコニコして、とてもやさしくしてくれます。僕やキャンター君がけがをしてしまった時も、一生懸命治療してくれました。

こんないつもニコニコの石黒さんも、試合の時は顔がきりつとして、とても真剣です。僕の見たところ、どうも障害競技のほうが好きらしいです。キャンター君とのちよつとどたどした障害練習も、楽しそうに跳んでいます。

こんな大好きな石黒さんですが、ふと後ろ姿を見ると、シャツがはみ出ていたりします。部活しかない日は、髪の毛が爆発していたりしてちよつと気になったりしますが、誰にでも好かれる人気者です。皆さん、これからも石黒さんをよろしくお願いします。

市原 榛

こんにちは、市原綾です。現在3年生で、馬具係を担当しています。私は本来二十一歳であるべきなのに、なぜか二十三歳になつちやいました。でも心は十五（でも体は十八）。

まだまだ、そこらへんの女子高生に負けてない、ていうか負けないつもりです。こんな私にも悩みは多少あります。それは肩がよく脱臼することです。もう、最近また脱臼しちゃって、この前なんか寝ながら冷蔵庫開けようとしたらまーたはずれちゃって、いやー、まいったまいった。でも、周りの三年生がそりやもう良い子ばかりで、こんな私を助けてくれるんです。いい仲間をもって幸せです。

肩の脱臼で部活には参加できず、あつという間にはや四年生です。あと約一年で馬術部とも大学ともお別れです。けど、私には大きな夢があります。それはスッチーになることです。スッチーになり、世界にはばたく市原綾になりたいのです。ガ、周りには何故か反対されます。何故だろう？まあこれはあくまで目標ですが、今は最後の一年を楽しくいい思い出にしたいという事です。あと、脱臼しないこと。というわ

けで、イッチーこと市原綾をよろしくお願いします。

大矢隆太

俺は大矢隆太だ。今から俺の自慢話をする。まずは俺のルックスの話から始める。締まった体、長い足、小さいお尻、甘いマスク。とりあえず女の子をメロメロにする罪な男なわけだ。ごめん。

次は抜群の頭脳だ。だてに青山学院大学国際学部で鍛えてはいない。この頭脳が馬上で役に立つ。俺の技術と頭脳でどんな馬でも乗りこなせる。そんな俺に俺は酔っている。ちよつとくさかったかな。でもみんなも酔ってくれていい。こんな俺にとどめを刺すのは、俺が自分には厳しく、他人には優しいことだ。三十八度を超す熱のある日でも、ケガで具合が悪くても、俺は決して部活を休まない。そして馬と後輩の面倒を見ることを欠かさない。特に、後輩に男の生きがいを教えることば誰よりもうまい。

あー、まだまだ書き足りないが、しようがないからこの辺でやめておこう。俺をわかってもらえたかな？

長田 幸子

はじめましてこんにちは。あたしは長田幸子といひます。幸子の好きな馬はキンタンことブルー・ステインガー。誰よりもキンタンのこと大切に思っています。私はキンタンのことをベストフレンドの一員だと思ひ続けるでしょうし、最愛のパートナーになりたいと心底思いつづける予定です。こんな私、変ですか？確かにみんなからは変だといわれてます。私の好きな馬がキンタンということ…。

それに、最近すごく思うことは、「やっぱり私も女ね」ということ。いろんなものに興味が湧いて、就職活動や勉強に力が入らないのです。色気づいちやつて。

こんな私も後一年で卒業です。私の学生生活こんな程度だったと後悔しない様に、部活に勉強に就職に恋愛にと頑張りたと思っています。よろしくお願ひします。

(仲内おりえ記)

仲内おりえ

三年生の仲内おりえさんを紹介します。彼女は三年前、奈良県の葛城郡というところから来

ました。愛馬はブルーオンワード号で、「一年生の時からずっと走りつづけています。彼女にとつてブルーオンワードは、この馬術部の中で他の何者にも代え難いほど大切な馬になっています。その愛着ぶりもすごいです。普段の彼の世話はもちろんですが、彼が馬房の中で動く度に「キヤー、ミジュタンカーわい」といつて、いつも騒いでいます。普段の彼女は笑顔のかわいい女の子ですが、後輩の練習の時は声を荒げて鬼教官になります。そんな彼女ですが、来年はもう四年生です。愛馬ブルーオンワード号と共に、きつと素晴らしい成績を残してくれるものと期待しています。

広畑 耕司

オレの名は広畑。関東学生で広畑耕司の名を知らない奴はいない。なぜならオレの障害飛越はスピード違反、使役姿は幹事長顔負け、そして駅前留学のバイリンガル。もちろん、相づちは「アハーン」。馬場でおれのあだ名は「宇宙」あるいは「木星(ジュピター)・広畑」。なぜかって？それはオレの頭が人より大きいからさ。まあ、脳みそが人より詰まってるからなんだけ

ど、同じ学年の桃野のヘルメットがオレのヘルメットにすっぽり入った時はちよつと驚いたかな。

こんなオレは、馬場では人気者。施設係のオレの作品は、輸送用馬具置き場をはじめ、数限りなくある。オレがちよつと気の利いたギャグを言えば、同じ学年の仲内なんかは、死にかけのゴキブリのようにうずくまって笑いの渦に入り込んでいく。まあ時々ミスもあつて、「やちやつた大魔王」なんて呼ばれることもあるけど、それもオレのおちやめなところだから、これからもこのキャラを生かしていこーつと。

桃野 亜紀

今日は、桃野亜紀です。副将と会計を務めています。部活を低出費で運営することに頭を痛める毎日です(みんな、要求が多すぎです)。

馬術のほうでは、九八年度全日本学生女子選手権大会で優勝しました。どうやら私は雨の試合に強いようです(選手権も雨でした…)。

今年最後の年ですが、悔いの残らない様、愛馬ジョイ太郎とベルと一緒に頑張りますのでよろしくお願ひします。(長田幸子記)



秋田 成瀬 岡本
雄 だ

岡本享子

ハイ！わたし大草原の小さな家に住んでるローラちゃん。この馬術部に来る前は、岡本享子だけどネ。でも、最近スヌーピーやキムタクにも間違われるのよ。失礼しちゃうわ。わたしはロ・オ・ラ！わたし、高校一年の時からこの馬術部にいるから、かれこれなんと五年もこの馬術部にいるのよ。だから作業も慣れた物。中でも女子部屋掃除だけは誰にも負けないワ！五年間研究に研究を重ねてここまでできたの。だから誰にもゆずれない。卒部までもっと技を極めなきや。

わたしにはもう一つ「一番」があるのよ。実はわたしこの馬術部で一番背が低いの。でも、「えー、そんなふうに見えないよ。」ってよく言われるのは、この大きな態度のせいかしら…？ 趣味？お裁縫かしらね。馬匹になったウマたちには必ずゼッケンを縫ってあげるのよ。こうして青学のウマたちは少しずつ「キョーコ色」に染まっていくのよ。そう、少しずつ…。こんなわたしだけどころからも精一杯がんばるからみんな応援してね。ヨロビク。

(川崎園子記)

川崎 園子

彼女の名前は川崎園子、笑顔がキュートな英文科の二年生です。今でこそ「英文ギャル」の仲間入りをしている彼女ですが、高校時代は本人曰くデブでした。しかし持ち前の精神力で大幅な減量に成功し、今ではすっかりナイススタイルを手に入れました。そんな彼女ですが、実はインターナショナルな一面を持っており、アメリカに留学していたこともありました。いま、彼女は、『外国人に日本語を教える』という夢をかなえるために勉強中です。そのため、私達よりだいぶ早くに卒部してしまいましたが、私達と過ごした一年三ヶ月は彼女にとって大きな宝となったことでしょう。そして綱島で経験した色々な事を糧として、新しい人生を切り開いていくことでしょう。そのためにはまづ、あなたの大好きな「三つのない」を守ることから始めましょうね。

(岡本享子記)

P.S. エペソ人への手紙4：17～5：4 読んでみてね。

秋田 有紀

これから文学部英文学科二年の秋田有紀ちゃんを紹介します。彼女が馬術部に入ったきっかけは、幼いころオランダで乗馬を楽しみ、馬とのスキンシップに感動し、「あの感動をもう一度！」という理由で入部したわけでありませう。

今彼女が部活内で一番恐れていることを私は知っています。それは、もうじき係が変わることです。彼女は半年間「馬具係」という、非常にラクな、誰もがうらやむ係に所属し、みんながそれぞれの係に精一杯打ち込んでいるのを尻目にのほほんとすごしてまいりました。「ゆきちゃん、ホントにお疲れね！」

彼女の性格は明るく、いつも元気で常に百億ボルトの笑顔で一日中にここにこと笑っているのですが、ひとつだけ私達全員が困らされていることがあります。それは、一度口を開いたら「メガホンを使ってしゃべっているの……」というぐらい大きな声で話し、耳の鼓膜がどうにかなくなってしまいそうな勢いです。皆さんも彼女の美声にはどうぞ十分ご注意ください。

(成瀬裕子記)

成瀬 裕子

私は国際学部二年の成瀬裕子です。広島の実家では乗馬クラブを経営しているため、物心ついた頃から馬に乗せられ馬術に親しんできました。確かに他の部員の様におかしをあげまくったり、馬の顔をベチャベチャ触ったりというようないざいかわいがり方はしません、「馬は命の次に大切」という親の教えどおり馬に対する思いは人一倍強いつもりです。

部活ではメチャメチャ態度でかいから、勉強のほうもまじめにやっつけてないんじゃないかと思われがちだけど、これだけは信じてほしい。私はいかになりまじめよ。もちろん大学は四年でさっさと卒業するつもりだし将来のことだつてちゃんと考えてるけん。なかなかやるじやろ。とろいのは嫌いじゃけんね、こんなの当たり前よ。おつと、途中から得意の広島弁がでてしもうた。気にせんでや、いつものことじゃけん。

部活では、先輩達からはかわいがられ後輩達からは慕われもう大変。アイドルも楽じゃないわ。こんな裕子ちゃんだけだ馬術の他に料理とかメイクとか隠れた才能の突然の開花に改めて自分を惚れ直して今日この頃。サインがほ

しい人は早めに私の所に来んしゃい。私が有名になってからじゃ遅いけんね。

(秋田有紀記)

安田景一朗

僕は、経営学部二年の安田景一朗です。僕は部員から「やすつち」の愛称で親しまれており部員一番の人気者で高校生にもファンが多くてだんだん最近自分のさるつばいかつこよさを自覚してまいりました。また、僕のスペシャルトークはとどまることなく周囲の皆を爆笑の渦に巻き込む才能があります。僕の特技は尊敬する高柳さんの物まねです。僕の物まねに勝てる人はいないと思います。

部活生活においては、毎朝厩舎に入り馬匹の馬の馬体検査をすることからはじまります。騎乗面においても僕の生まれ持ったスーパーテクニクで、愛馬と共に数々の優秀な成績を修めて参りました。僕は同学年の思いやりのあるチームワークに支えられ毎日過ごしています。

学年に男一人という、僕にとつてはラッキーな環境の中でかわいい三人に恵まれ部活中にはやけて、顔に力が入らない状態です。

1年生



柴田 中沢
渡辺 松長 田口

これからも、青学馬術部に貢献できるように
生懸命がんばりますのでよろしくお願いします。
(成瀬裕子記)

松長 悠

僕は法学部一年の松長悠ッス。僕はけっこう朝が弱くて、いつも頭はねぐせでボン。時々遅刻したりして僕のかわりに安田さんが怒られたりしてるんす。すいやせん安田さん。

あつ、これは僕の口癖でもないのに、周りのみんなが僕のマネをするんす。同学年の人は「だれが本物かわからない」と言うんすが、僕から言わせてもらえば、全然似てないんすよねー。ま、それだけ僕が人気者ってことだと、ぼくはおもっているんですけどね。けっこうボロクソいわれてるけど、なにげに僕って優しいわけっすよ。だだちよつと、その、論点がズレてるってよくいわれるんつすよねー。ま、馬場でどれが僕かわからなくなったときには、一番ヒョウヒョウとしていて、焦ることを知らなさそうなねぐせの残ってるのが僕っす。何人か偽者がいるようにだけど、本物が一番いい味出してるんで、よろしくっす。

(田口恵理記)

田口 恵理

はじめまして、法学部一年の田口恵理です。

馬術部、入っちゃいました。去年まで制服にルーズソックスの、若さあふれるまぶしい高校生として馬場に通い、引退式のときはもう二度と綱島に来ることはないだろうと別れを惜しみ、家族からも友達からも先輩方からも、ゼツタイ大学は続けないだろうと思われてきたこの私が、こうして大学の馬術部の一年生として、いななきの原稿を書いているなんて、ほんとに信じられません。いやあー、人生なにが起るかわからないです。

この1月から一番上の姉と二人暮らしを始めました。毎日忙しいながらも時間を見つけて、料理や洗濯に勤しんでいます。4人姉妹の末っ子の私も、成長したものだなあ、と我ながら感心です。最近なんだか生活感が出て来て、オバサンくさくなつたという人もちらほらいますが、実際の月に姪が生まれて、私は晴れて名実ともにオバサンです。もちろん姪にはオバサンなんて呼ばせません。これからは日々、理想のおばさま目指して、がんばります。

(中沢明子記)

中沢 明子

私は国際政治経済学部国際政治学科一年の、中沢明子です。私は大変頭が良く、自慢じゃないけど高等部の時は、奨学金を頂いておりました。性格も温和で面倒見が良いと評判です。友達の相談は常に絶えず、かなり頼られています。馬術部は高等部からやっておりまして、高等部副将も務めさせていただきました。私には大変強い守護霊がついているので、普通の人がやっでできないようなことでも私がやれば、おちやのこさいさい。こんな完璧とも言うべき私ですが、ゆつくり歩くことができないのがタマにキズ。私の歩く速度はマツハなので、私と一緒に歩いた人は次の日必ずすねが筋肉痛になるようです。私のマツハについてこれる人を募集しています。この足を生かして、馬術部もがんばっていきます。

(田口恵理記)

柴田 明良

柴田明良君は、国際政治経済学部国際経済学科の一年生です。柴田君とは、もう9ヶ月の付き合いですが、お互いうまく助け合っていて

ると思います。朝作業をしてからほとんどの日が二限で学校へ行きます。だから馬場で一緒にいることがないので、さみしいです。

柴田君と僕の初めての試合が東北学院戦でした。青学は、自馬なので負けたら坊主だと先輩方に言われていました。二人ともぜったい坊主にはなりたくなかったので、気合いを入れて試合に出たのですが、全員負けてしまいました。約束どおり僕たちは坊主です。

柴田君は、馬場馬術競技で全国大会2位という成績を持っているので、これからの試合はがんばってくれそうだと思います。こんな柴田君は、酒にとっても弱いのです。酒を少し飲むと違う柴田君に変身します。いろいろと面白い柴田君です。

(渡辺裕二記)

渡辺 祐二

渡辺祐二君は、二部経営学科の一年生です。一年生の中ではただ一人の二部というのは、かなり大変なことだと思いますが、彼は弱音も言わず頑張ってくれています。

彼は高校生時代には大きなタイトルもとつて

おり、将来が期待される選手です。大学生時代にも活躍してくれるでしょう。

次に彼のキャラクターについて書きます。彼に初めて会ったとき、だれもがなんてクールなおトコだろうと思ったはずです。しかし皆だまされていたのです。時間が経過するにつれてギャグを連発し、栗東パワーを發揮し、青学を笑いの渦に巻き込んでしまったのです。

あと年間、みんなを笑わせ続け、試合でも活躍するように頑張ってくれることでしょう。

(柴田明良記)

馬匹紹介

ブルー・バーディー



ブルー・バーディー

私は最近、運気が下がっているらしく、いやな事が続いて起こり困っています。まず、青学に来てすぐに大病フレグモーネを患いました。足からの感染でしたが、どんどん菌がまわり、私の顔はパンパンになりアンパンマンのようになってしまいました。次に私は、放牧中に砂あびをされていてらちに足をはきみました。とれなかったものでちよつともがいてみたら、足がザツクリ切れてしまい、予想よりほるかに大きな痛みを経験しました。3つ目は、ペルシヤン・ブルーが来た事です。彼がやって来てから、山梨さんの態度がそつけなくなりました。山梨さんは葦毛に弱いので、心配していたのですが、どうやらその予感が当たってしまった様です。そしてくよくよ悩んでいるうちにフレグモーネが再発してしま

いました。今回は足のはれだけで止まりましたが、治った今も私の足はぞうさんです。

辛い事ばかりの私の人生ですが、これも神様がお与えになった試練だと思い、がんばっていこうと思います。これからもよろしくお願いします。

ライジング・ブルー

ぼくジョイス。僕は最近おもしろくない事が続いている。それはなぜかという、馬匹のあやりんは時々ぼくの存在を忘れてしまうようだし、一番下の安田は一年前に体温計を肛門と違うところにさそうとしたので、

ぼくは思わず安田の半月板めがけて思いきり蹴ってやった。安田はその後しばらく部活を休んだが、あいつが悪いと思っているのでぼくに罪悪感はない。しかしこりもせずあいつは馬匹になった。まん中の桃野は、すぐシバく。ぼくの唯一の得意技「殺人キック」はまだ一発も決まっ



ライジング・ブルー

いない。いつか安田のように桃野も休部させてやる。

ぼくの趣味は、人をおとすこと。人がおちると嬉しくて馬場中を駆けまくってしまう。一番おとしたいのは桃野だが、あいつはなかなかしぶとい。全くとっておもしろくない。

でも、馬匹の三人もそれなりに気を使ってくれてるようだし、ぼくもちよっと大人になってたまには勝たしてやるか。



ペルシャン・ブルー

ペルシャン・ブルー

ぼくは、最近青山学院大学馬術部に来たばかりのペルシャン・ブルー。みんなにはブルーをつけた試合用の名前があるけど、ぼくはここにくる前からずっとペルシャン・ブルー。みんなからは「ペルシャン」と呼ばれている。ぼくには癖がある。それは口をボンボンすること。いつもボンボンしている。えさをもらう時も、障害を跳んでいる時も、体を洗ってもらっている時もしている。この癖は直せないな。

時々みんなはぼくをいじめるんだ。それは口でプープー音を鳴らして、

ぼくが嫌がるのを楽しんでいるんだ。あの音を聞くといやでいやでしようがないんだ。やめてくれー。

ぼくはよく山梨さんに乗ってもらっている。山梨さんはよく可愛がってくれるいい人だ。ぼくはお尻が痛いから、よくマッサージしてくれるんだが、これがまた痛いんだ。

じゃあまた、ペルシャン・ブルーをよろしく。

オーシャン・ブルー

俺はオーシャン・ブルー。またの名を「テストロツサ」。世界一はやく、そして高く跳ぶ馬さ。名前の通り、クールでモテモテの俺だけど、周りの人間どもは「テツチャン」とか呼んでるぜ。「テツピロツピ」とか呼ぶやからもいたな。失礼な話だ。俺にはもつとふさわしい名前があるはずだ。



オヘシャン・ブルー

総合の野外で風のように走り、障害をぶち壊す様を世界中の雌馬どもがよだれを垂らして見ているが、俺には関係ないことだ。

俺の望みはただ一つ、「自由になりたい」それだけだ。隙を見計らって脱走するが、いつも馬場の前の鉄の棒に遮られてしまう。誰でもいい、俺を自由にしてくれ。せめて、せめて、放牧だけでも…。(現在、テスタロツサは足のけがのため療養中です)



ブルー・ラグーン

今日は、白目がキュートな、「ラグ」ことブルー・ラグーンです。

ぼくの誕生日は、平成四年四月一日。まだ七歳という若さあふれるスーパーホースです。でもぼくはまだ知らないことばかりで、乗ってもらう人に教えてもらっている今日このごろです。休馬明けの日は体力が余っているから、つい暴れたくなっちゃって、よく怒られるんだあ。

そんなぼくにも可愛がってくれるグルームの人がいて、いつも体はき

れいだし、練習が終わって馬房に帰った時にオガが入れてみると、本当に泣けてくるね。

やつぱり、一番嬉しいのはえさをくれる時かな。他の馬のほうが先にえさをもらっているとイライラしちゃいます。ぼくのえさを一番最初に入れてください。

今はまだ大きなタイトルはないけど、これからどんどん取っていくから、みんな見ててくれ。

ブルー・ライアン

ぼくの名前はブルー・ライアン。青山学院大学にくる前の名前はハーモニー。だからみんなは「ハム」って呼んでいます。ぼくは一九八九年六月四日生まれ、父はホマレカムイオー、母はウォータークインです。

実はぼく、怖がり屋なんです。馬場の横を車が通るだけでびっくりしちゃうし、馬事公苑でも怖いものばかり。でもグルームの人たちが耳



ブルー・ライアン

当てをしてくれるから、ちよつと安心。でも怖がりだからつてなめてもらつたら困るね。この前の女子自馬大会でも二位になつたんだ。きつと、全日本学生馬術大会でもいい成績を上げるんだから。

ばくはグルームにも恵まれて、他にも可愛がつてくれる人たちもいっぱいいるし、これからも青山学院大学のためにがんばるから、みんなも応援してね。



ブルー・オンワード

ブルー・オンワード

ギイツ、ギイツ、ここつて言う時に弱いのが僕ね。「ミズーリ」ことブルー・オンワード。

もう十四歳になつたから、足腰が弱くなつた。でも、首をたたかれると「あーん、ぎもちー、もっどー」つていう特技を持つた。「あーん、ぎもちー、もっどー」をしてる時だけ、みんなに好かれる。常に「ミズ、かーわいーん」つていつてくれる人は、馬匹の香ちゃんとオリエとアイツだけ。プラス装蹄師の城さん。杏ちゃんは、何でかわからないけど僕

が水を飲んでもえさを食つても「んーかわいー、やつぱこれだね最高」を連発する。何を考えてるのやら。

それにしても「あいつ」本当に使えねえよ。あいつ本当いらねえつて感じ。でもあんまりいえないんだよねえ。だつて僕、本当ここつて時に弱い。「あいつ」と一緒なんだよなー。誰か勇気をくれつて感じ。綱島の馬場だとみんなに強いのに。だからみんなに嫌われるのかもしれない。もつと大人にならなきゃ。反省してます。ギイツ。

ブルー・ジーンズ

僕は、馬場のスペシャルホースで有名なブルー・ジーンズ。部員からは「アサ君」と呼ばれちゃつてるの。

最近僕は、左後ろ足がフレグモーネにおかされて、「象の足じゃない?!」というぐらい腫れて歩けない状態になり、焦りまくつたのさ。僕



ブルー・ジーンズ

は長老だから治るまでに時間がかかっちゃって、毎日辛い思いをしたの。でも馬匹の深い愛憎に支えられ、今ではピンピンに元気になっちゃった。また僕は、青学の馬場部門の主戦馬だから、部員の期待を一心に背負ってるの。馬事公苑でも、僕が馬場に入り運動を始めるとたちまち注目の「少し照れるけど、僕が持つて生まれた才能が光りまくってしまうので仕方ないことなんだ。僕はまだまだこれから誰も真似のできない華麗な演技を披露しつづけるから、応援よろしくお願いね。



ブルー・ベルベット

ブルー・ベルベット

僕、チャンス・チャンス。僕のパパはOBの斎藤比佐郎さんだよ。青学に来てブルー・ベルベットっていう試合用の名前をもらったんだけど、

来てすぐに骨折しちゃってさ、試合にはまだぜんぜん出てないんだ。でもこれから頑張るよ。

僕はベルギー生まれで、めちゃめちゃ大きいんだ。休もでかけりや顔

もでかくて、他のみんなは無口の使い回しとかしてるけど、僕は仲間に入れなくてちよつときみしい。みんなのは小さすぎて入らないんだ。あと、鞍の使い回しにも入れてもらえない。鞍の持ち主に、「広がっちゃうからいやだ」っていわれるんだ。さみしいやー。

後、僕に乗る人は苦勞するらしい。何が大変かって、「重い」とか「反動が大きい」とかじゃなくて、鞍の上にかかること。ほら、僕大きいから、かなり気合い入れて跳ばないとあがれない。それで僕に乗る人はみんな、運動前に汗だくなわけ。ま、こんな僕だけだよよろしくね。

ブルー・グレイス

名古屋から、青学のプリンセスとしてやってきた「フィアンセ」ことブルー・グレイスです。名古屋の思い出を胸に秘め、今年二月、ダーリン明良君より少しはやく東京に来ました。こつちでの生活は、明良君と



ブルー・グレイス

いつも一緒にいられるし、毎週末馬事公苑におでかけできるし、智子ママとロトラがかわいがってくれて、毎日がとても楽しく幸せです。でも最近、智子ママのくれるおいしいおやつので太ってしまい、鞍が回ってしまって悩んでいます。

ところで、私は最近山の中を走る練習を始めました。山の中をビュンビュン走るのはとても楽しいのですが、水濠だけは好きになれません。でも、ママと明良君に誉めてもらえるように頑張ろうと思います。

ところで、私は今前肢をクロスさせることに凝っていて、どうやったらかわいいか、日々研究に励んでいます。今後の目標は、この技を関東学生ではやらせることと、体重を減らしますますキュートになることです。皆さん応援してください、ではさようなら。



ミント・ブルー

ミント・ブルー

僕の名前はミント・ブルー。馬場では「サクゾーとか「サツ君」て呼ばれてるんだ。

僕が好きなのは水なの。だから、きれいな厩舎も二日でオガの色が変わり、常に厩舎の中がデンジャラスゾーンで、オガ取りにいつてくれる一年生のみんなに迷惑をかけつばなしさ。

僕の厩舎は、部屋に上がる階段に一番近いため部員とよく目が合い、顔を撫でてくれるファンが急増中”でも、ちよつぱり階段を上がつていく音がうるさいナ”僕の日課は、部員がお昼ぐらいに帰った後で、馬せん棒のカギの部分に耳をちよこんとのつけて爆睡することで、最高の幸せを感じてるのさ。

最近、試合にも多く出場するようになって、馬場ではもつたいたなくて見せられない僕の才能あふれたスーパージャンプで活躍しまくりさ。僕は、どこからでも障害を跳べる力があるから、部員のみんなを感心させまくりー

まだまだ若い僕に、これからも期待してね。応援よろしくお願いします。

ブルー・キャンター

ヤッホー、僕テンテン。最近青学馬術部に転入したんだ。前は「エイシンテンペスト」って名前だったんだけど、僕の素晴らしい走りを見た青学生に「ブルー・キャンター」って新しい名前をもらったんだ。



ブルー・キャンター

エへ。

若い時はね、めちやめちや速く走れたから、日本ダービーにも出ちやつたりしてたんだー。着？出ることには意義があるんだつーの。誰がブルー賞だったなんていえるか！あ、早々、二年の安田のお父さんも乗ったことあるんだー。だからこの前安田乗つけてあいつの新人戦優勝させてやったんだー。ありがたく思えよ、ヤスツチ。

まあこれだけでも僕のすごさが伝わってくると思うけど、まだあるんだよ。はら、僕って器用だから、障害だけじゃなくて馬場（？）も踏めれば野外も走ってこれちゃうんだよ。スパーホースだろ、僕って。だけど最近やつぱり年のせいかなー、体の節々が痛いんだよね。この前、石黒乗せて野外で年甲斐もなく頑張ったら、自分のスパイクで足踏んじやってケガしちやつたんだよね。ま、僕の足が長すぎたからって説もあるんだけどサー、悪いことしたな、グロ。

でもこんなキズど一つてことないよ。次の試合までにはケガを治して

全日本学生のトップに躍り出てやるから見ててくれよー。

タイニー・ブルー

俺はタイニー・ブルー。みんなから呼ばれている名前は「シロ」。でも、最近白じゃなくてちよつと黒っぽくなってきたずら。その上、俺よりも白い奴がやってきたずら。悔しいなー。

俺は、昔競走馬として走っていた。でもあまり勝てなくて、乗馬として青山学院大学馬術に来たずら。競走馬時代は使えない奴だったけど、馬術では結構使えるぜ。でも、試合に出たらあまり満点が取れないずら。馬場の練習ではよく跳ぶんだけどな。今後の試合は一生懸命頑張るずら。みんな応援してくれよ。

みんな俺を可愛がってくれるから、これからも頑張るずら。みんなほとんど俺に乗ってうまくなって欲しいずら。

じゃ、また。これからも応援よろしくお願いします。



タイニー・ブルー

ブルー・ステインガー



ブルー・ステインガー

今日は。僕はブルー・ステインガーこと「キンシ」です。みんなからは「キンタン」とか「キンシ」とか、呼びたい様に呼ばれています。僕は練習馬なので、めったに馬事公苑には行きませんが、あのスタートのベルさえ鳴らなければ、140mのコースもへっちゃらのスーパーホースです（でもスタートベルのない試合がないんです）。僕のチャームポイントは困った顔です。いつも困った目をしていて、高校生からはこの哀愁漂う雰囲気がかわいと密かに人気なんです。でも大学生の人気は今一つです。誰か僕を放牧してくれる人、募集中です。

平成11年度 活動予定

4月	23（金）～25日（日）	東都学生馬術大会
6月	5（土）～6日（日）	関東学生争覇戦
6月	24（木）～8日（日）	関東学生馬術競技大会
8月	6（金）～8日（日）	関東学生馬術選手権大会
10月	2（土）～3日（日）	関東学生馬術競技大会（総合）
	31（日）～7日（日）	全日本学生馬術競技大会
12月	11（土）～12日（日）	関東学生女子馬術競技大会
	18（土）～19日（日）	全日本学生馬術選手権大会

平成9・10・11年度 馬術部試合結果報告

平成9年6月11日～13日	第32回関東学生賞典障害飛越競技大会
川 俣 亮 介	プミブルー号 2位
平成9年6月26日～28日	第69回関東学生馬術選手権大会
	第48回関東学生馬術女子選手権大会
川 俣 亮 介	3位
松 岡 智 子	2位
平成9年7月5日～6日	第22回東京都馬術大会
	第50回都民体育大会（Ⅱ）
L級障害飛越競技	
川 俣 亮 介	ブルーチェリー号 2位
馬場馬術競技 第3課目	
大 矢 隆 太	ライジングブルー号 2位
平成9年10月3日～5日	第22回オリンピック記念馬術大会
S&H障害飛越競技	
川 俣 亮 介	ブルーオンワード号 2位
アマゾングランプリ 婦人障害飛越競技	
成 瀬 裕 子	ブルーサンダー号 3位
桃 野 亜 紀	プチブルー号 6位
平成9年11月1日～2日	第35回関東学生馬術女子競技大会
馬場馬術競技	
桃 野 亜 紀	ブルージェーンズ号 5位
清 野 裕 子	ライジングブルー号 10位
障害飛越競技	
桃 野 亜 紀	ブルーライアン号 2位
平成10年3月14日～15日	第6回関東学生馬術協会会長杯争奪戦Lクラス競技
安 田 景 朗	ブルーオンワード号 1位
	第29回関東学生馬術新人競技大会
オープン競技	
初 山 晶	ブルーライアン号 2位
平成10年3月21日～22日	第15回関東ジュニア馬術競技大会
学生賞典馬場馬術競技	
川 崎 彰 子	ブルージェーンズ号 2位

平成10年4月11日～12日 第35回東都学生馬術大会

学生賞典馬場馬術競技

川崎 彰子	ブルージーンズ号	5位
桃野 亜紀	ライジングブルー号	13位
大矢 隆太	ブルーラグーン号	20位

新人障害飛越競技

安田 景朗	ブルーキャンター号	優勝
広畑 耕司	ミントブルー号	13位

女子障害飛越競技

桃野 亜紀	ブルーライアン号	7位
成瀬 裕子	ブルーグレイス号	12位

標準障害飛越競技

松岡 智子	ブルーグレイス号	13位
-------	----------	-----

複合馬術競技

松岡 智子	ブルーグレイス号	6位
初山 晶	タイニーブルー号	12位

平成10年5月23日～24日 第51回都民体育大会

婦人障害飛越競技

松岡 智子	ブルーグレイス号	5位
石井 香子	オーシャンブルー号	10位

男子馬場馬術競技

石黒 健一郎	ブルーラグーン号	3位
--------	----------	----

婦人馬場馬術競技

桃野 亜紀	ライジングブルー号	優勝
-------	-----------	----

ジムカーナ

広畑 耕司	オーシャンブルー号	13位
-------	-----------	-----

平成10年6月19日 第33回関東学生賞典馬場馬術競技大会

桃野 亜紀	ライジンダブルー号	10位
-------	-----------	-----

平成10年6月27日 第34回東日本馬場馬術大会

ヤング・ジュニア馬場馬術競技

川崎 彰子	ブルージーンズ号	12位
-------	----------	-----

、平成10年7月3日～5日 第70回関東学生馬術選手権大会

山梨 拓磨		14位
-------	--	-----

第42回関東学生馬術女子選手権大会

桃野 亜紀		4位
-------	--	----

川崎 彰子		12位
-------	--	-----

松岡 智子		13位
-------	--	-----

平成10年9月26日～27日 第34回全日本学生馬術女子選手権大会

桃野 亜紀 優勝

松岡 智子 2位

平成10年10月3日 第33回オリンピック記念馬術大会

第1競技 S&H障害飛越競技

赤塚 隆平 ブルーライアン号 6位

第3競技 アマゾングランプリ

石井 香子 ブルーグレイス号 13位

第4競技 S&H決勝

赤塚 隆平 ブルーライアン号 13位

第11競技 後藤杯障害飛越競技

大矢 隆太 ブルーグレイス号 6位

第12競技 馬場馬術競技

川崎 彰子 ブルージーンズ号 3位

桃野 亜紀 ライジングブルー号 13位

第13競技 学生賞典馬場馬術競技

川崎 彰子 ブルージーンズ号 4位

桃野 亜紀 ライジングブルー号 5位

平成10年11月1日～3日 第50回全日本馬場馬術大会

全日本馬場馬術ヤングライダー選手権学生賞典課目

川崎 彰子 ブルージーンズ号 13位

全日本馬場馬術ヤングライダー選手権学生賞典決勝課目

川崎 彰子 ブルージーンズ号 14位

平成10年11月25日～29日 第41回全日本学生賞典馬場馬術競技大会

桃野 亜紀 ライジンダブルー号 12位

川崎 彰子 ブルージーンズ号 13位

平成10年12月5日 キャロットステークス

第9競技 馬場馬術 第4課目1993

柴田 明良 ブルージーンズ号 2位

渡辺 裕二 ライジンダブルー号 3位

安田 景一朗 ライジンダブルー号 7位

平成10年12月13日 第38回関東女子馬術競技大会

馬場馬術競技

仲内 おりえ ブルーラグーン号 5位

成瀬 裕子 ブルージーンズ号 11位

第36回関東女子馬術競技大会

障害飛越

桃野 亜紀 ブルーライアン号 14位

平成11年3月5日～7日 第30回関東学生馬術新人競技大会

成瀬 裕子 タイニーブルー号 8位

柴田 明良 ブルーグレイス号 12位

大矢 隆太 ブルーライアン号 15位

第22回関東学生馬術OB競技大会

障害飛越競技

斎藤 比佐郎 ブルーライアン号 13位

スーパースラローム

斎藤 比佐郎 ブルーバーディー号 7位



編集後記

発刊させることを計画してからずいぶんと時が経過いたしました。が、ようやく「いななき」第十五号を完成させることができ、とてもうれしく思います。これも我々現役の力のおよばないところを大いに助けてくださったOBの方々の御指導・御協力のおかげでございます。特に広告を出していただいた方やお忙しい中原稿を書いて下さった方や我々に不慣れな編集を手伝って下さった方々の御協力には感謝いたしております。本当にありがとうございます。

みなさまが、この冊子を見ることによつて昔の出来事を思い出されたり、現在の部の状況を御理解していただければ、我々もとてもうれしく思います。次号を発刊する際には、よりみなさまに喜んでいただけるような内容にするために、今回の経験を基にして頑張りたいと思いますので、その際には御協力お願い致します。

最後に、これからも勉学と馬術を両立させて、それらをより一層向上させるよう努力いたしますので、ますますの御指導、御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

「いななき」編集委員二同

非 売 品

いななき 第15号

1999年9 月30日発行

発行者 青山学院大学体育会馬術部・緑鞍会

住所 〒223-0055神奈川県横浜市港北区綱島上町1-1

電話 045 (543) 9339

印刷所 株式会社横林社

住所 〒105-0013東京都港区浜松町1-2-15